

あきた

直言温言

今、モンゴルが注目されている。尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件で中国がレアアース(希土類)の対日輸出手続きを事実上停滞させたのをきっかけに、資源問題がクローズアップされたためだ。菅直人首相はモンゴルのバトbold首相と会談、両国がレアメタル(希少金属)や石炭、ウランなど鉱物資源共同開発に関する連携を強めていくことで一致したという。日本にとって資源の分散調達となる。

筆者は8月下旬から9月上旬に国際会議(第19回北東アジア

千葉 康弘

中国河北師範大客員教授

モンゴルと秋田

「鉱業」生かし提携を

経済フォーラム)への出席を兼ねモンゴルを訪れた。会合ではモンゴルの抱えている「持続可能な開発と鉱工業」も討議された。その後、現地を回りながら、本県とモンゴルとさまざまな共通点があり連携ができることに気付かされた。

4月からスタートしている

「秋田県東アジア交流推進構想」でも、モンゴルは鉄鉱石の輸入先とされている。本県の優れた鉱山関連技術を生かし、鉱山開発などでの協力が可能であり、またリサイクル技術・リサイクルビジネスの事業化なども含め、地域間交流による資源循環

システムの実現するカウシスターパートナーの国と位置付けられている。本県での鉱業技術の研究、人材育成は100年の歴史のある秋田鉱山専門学校(現・秋田大工学部)を嚆矢として行われてきた。現在は同大以外にも、小坂町に富士山麓から20

「秋田県資源技術開発機構」ともに、この分野の日本の中心地になっている。小坂町にある本県の金属鉱業研修技術センターは、3機関と連携して金属鉱業に関する技術の研究開発、研修、交流事業を行っている。また、世界に冠たる高度なリサイクル技術を保有しているDOWAホールディングスの

援などの人材育成が行われ、首都・ウランバートルに「モンゴル秋田友好協会」も誕生している。昨年はモンゴルからの農林業指導者の研修を受け入れ、パートナーシップに基づく交流が緒に就いている。ウランバートルには横手市の製麺会社・林泉堂が企業進出のパイオニアとして秋田の食材を豊富に使うラーメン・レストランを開店し、人気を博している。秋田大学が3校、国際教養大学が2校と県内

県内関連企業の存在も民間企業の貢献として大きい。秋田とモンゴルは馴染みが深い。モンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。

秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。

秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。

秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。

秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。

秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。

秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。



秋田とモンゴルの架け橋となったのが「モンゴル代議士」とも呼ばれた横手市在住の川俣健二郎氏であった。川俣氏の呼び掛けで1992年と2006年の2回、「秋田県モンゴル親善訪問団」が組織され、計288人の県民がモンゴルを訪れている。